

水土里ネット秋田による市民農園開設の事例〔秋田県秋田市〕

1. 地域農業の状況

- 秋田市は、秋田県の沿岸中央部に位置し、典型的な日本海側気候の地域であり、冬期間の積雪寒冷気象は農業を行ううえで制約条件となっているが、夏期の梅雨の短さと比較的冷涼な気候は、野菜、花きの高品質生産に好適な条件となっている。



- 秋田市の耕地面積は、9,220haであり、耕作放棄地面積は676ha(2010年農林業センサス)となっている。

なお、耕作放棄地発生要因としては、高齢化による離農や後継者不足によるが、特に山間部等の条件不利地での引受け手がないことは、当地域において深刻な問題となっている。

耕地面積	2014年	9,220ha
田耕地面積	2014年	8,530ha
畑耕地面積	2014年	695ha
総農家数	2010年	4,340戸
自給的農家数	2010年	845戸
販売農家数	2010年	3,495戸

資料：耕地面積統計、農林業センサス(農林水産省)

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	水土里ネット秋田	地区名	仁井田(にいだ)地区
再生面積	約0.2ha	取組年次	平成22年
作付作物	野菜等(市民農園)	販路	—

(1) 市民農園開設の背景

- 耕作放棄地対策協議会員である水土里ネット秋田は、農地の有用性を広く知ってもらうため、耕作放棄地を活用し農業体験施設(市民農園)を開設したい意向があった。

(2) 市民農園(農業体験施設)の開設

- 都市近郊の耕作放棄地を活用し、農地環境の改善と都市住民の食に対するニーズ(安全・安心)に対応するため、食育を通じた健康増進活動を目的に、小学生を含めた地域住民参加型の「あきた農業体験施設」を市民農園として計画。
- 再生作業に当たっては、地域住民の参加者を公募し、会員35人で再生作業から作物の作付け、管理等を実施。水土里ネットを中心にNP0、市協議会と共同運営。
- 再生作業により開園した市民農園を活用し、町内子供会等へ農業体験を実施することにより、農業の重要性や苦労を肌で感じ、農業への理解を醸成するとともに、子供会を中心とした町内コミュニティ発展の場として活用され、平成22年度から5年間で延べ約1,280名が参加。

再生中の様子



活用した支援策

H22耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)
H22農地有効活用促進支援事業(県単独)

再生後の様子



小学生のジャガイモ掘り